

令和8年度 内部質保証による 自己点検・評価報告書



自己点検・評価の「目的」

大学が自律的な組織として、理念や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究並びにそれらを行うための組織、運営、施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、絶えず改善・向上に取り組むことを目的とする。

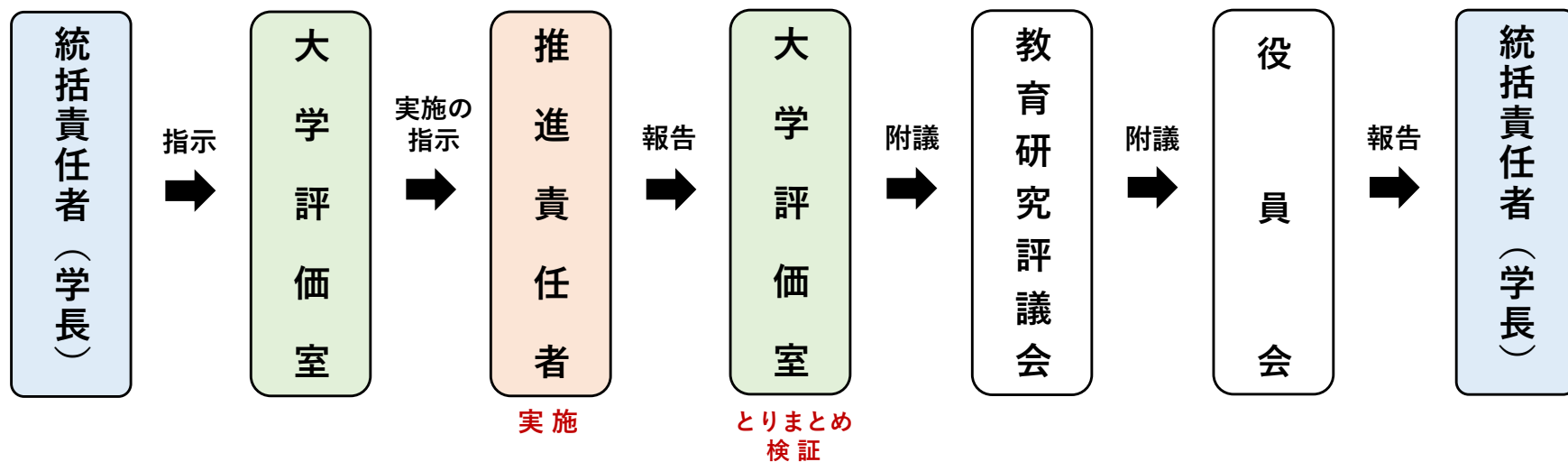
自己点検・評価の「実施対象・方法」

「群馬大学における内部質保証に関する方針」、「群馬大学における教育の内部質保証に関する方針」、及び各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、以下の対象分野について責任主体組織及び推進責任者が定める組織において、自己点検・評価を実施する。

区 分	対象分野	推進責任者	責任主体組織
教育活動	教育課程	理事（教育・評価担当）	責任主体組織（評価） 大学教育・学生支援機構 教育アセスメント委員会 責任主体組織（改善） 大学教育・学生支援機構 大学教育センター 学部教務委員会、大学院教務委員会
	学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 学生支援センター運営委員会
	留学生支援	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 グローバルイニシアチブセンター運営会議
	学生受入	理事（教育・評価担当）	大学教育・学生支援機構 アドミッションセンター運営会議
研究活動	研究活動	理事（研究・企画担当）	研究・産学連携推進機構会議
施設設備	施 設	理事（総務・財務担当）	施設・環境推進室
	情報設備・図書館	総合情報メディアセンター長	総合情報メディアセンター運営委員会

自己点検・評価の「実施体制」

- ① 統括責任者（学長）・大学評価室の指示のもと、内部質保証の対象分野ごとに推進責任者が、責任主体組織において実施する。
- ② 推進責任者は、結果を大学評価室に報告し、大学評価室においてとりまとめ・検証を行う。
- ③ 大学評価室は、結果を教育研究評議会・役員会に附議し、統括責任者（学長）へ報告を行う。
統括責任者は、必要に応じて意見を付し、推進責任者へ改善計画の策定・実施を指示する。



令和8年度の実施状況

各推進責任者等が定める「自己点検・評価及び改善実施要項」に基づき、自己点検・評価が実施されていること及び自己点検・評価の結果、優れた点及び改善すべき点があることを確認した。

※具体的な結果については、次頁以降、対象分野ごとに記載する。

【教育活動】教育課程

■ 実施対象

14の教育課程（学士課程：教養教育・3学部・2学科）（大学院課程：6研究科・2学環）

■ 点検・評価事項

- ・各教育課程の学位授与方針、教育課程方針及び学位に対する学修成果の達成水準
- ・各教育課程における教育内容、方法等

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

学部等	概 要
全教育課程	<p>【群馬大学LMSの整備・活用】（継続） 群馬大学LMSにおいて、授業科目ごとのコースが設定され、教材の公開、テスト・アンケートの実施、課題の確認などで利用されている。教員、学生ともに、いつでもどこからでもアクセスすることができ、学生の自発的な学習や教員と学生とのコミュニケーションを促すための多様な機能により、対面授業を補完するツールとして役立てられている。</p>
全教育課程 （博士・ 博士後期）	<p>【博士後期課程学生への支援】（継続） ・JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）に採択されて開始した「次世代グンマ創発的博士人財インダクションプログラム（Next-GIP）」により、博士後期課程に在籍する学生のうち、優秀な者に研究奨励費及び研究費を支援し、キャリア開発・育成の機会を提供している。</p> <p>・企業との共同研究又は研究・産学連携推進機構の諸活動の補助業務への従事を通して、博士後期課程に在籍する学生の産業界への就業力を高めることを目的として、リサーチ・アシスタント（産学連携）を実施している。</p>

【教育活動】教育課程

■ 優れた点

学部等	概 要
共同教育学部	【分野専門科目の履修拡大】 2年次以降のカリキュラムの過密状況を軽減するため、分野専門科目について、1年次より履修できる科目を拡大した。
教育学研究科	【教員採用試験受験に向けた配慮】 大学院2年次において教員採用試験を受験する学部新卒学生について、試験前の課題研究および実習についての配慮を行っている。
	【修了生の活躍】 群馬県教育委員会主催「ぐんま教育フェスタ」において、修了生3名が課題研究の成果とその後の実践について発表を行った。
理工学部	【メンター制の導入による学生指導】（継続） 令和3年度入学生より、1年次から学生一人ひとりにメンター教員（相談・世話役）が配置され、学修支援や進路相談を行っている。令和7年9月には、教務システムの改定により単位の取得状況を容易に確認できる機能を整備し、より学修支援体制が強化された。
	【カリキュラムの継続的な改善体制】（継続） 令和6年度に理工学教育センターを新たに設置し、改組後カリキュラムを体系的に遂行し、継続的に改善していく体制を構築している。
	【多様な教育プログラムによる人材育成】（継続） 実践力の高い学生を育成するため、問題解決型学習（PBL）教育を実施し、企業との連携強化、企業と学生による双方向の情報発信等を推進している。 GFL育成プログラムでは、医理工融合分野において高いコミュニケーション能力と主体性を備えた人材の育成を行っている。
理工学府	【複数教員による指導体制】（継続） 学生1名につき、複数の教員（指導教員1名、副指導教員1名）による指導体制を敷いている。

【教育活動】 教育課程

■ 優れた点

学部等	概 要
食健康科学研究科	【シンポジウムやセミナーの開催】 教育課程や研究内容を学内外に広く紹介し、食健康科学への理解の促進を図ることを目的としたシンポジウムやセミナーを開催した。
情報学研究科	【初の修了生輩出】 令和7年度末に初めての修士課程修了生を輩出した。修了生は、企業、官公庁・自治体、医療機関、大学等への就職や博士後期課程への進学など、それぞれの教育目的に沿った進路に進んでおり、目的に即した人材養成が行われている。 (令和7年度修士課程修了者数) 情報学研究科 37名 パブリックヘルス学環 5名 医理エレギュラトリーサイエンス学環 6名
パブリックヘルス学環	
医理エレギュラトリーサイエンス学環	

【教育活動】 学生支援

■ 実施対象

学生支援全般

■ 点検・評価事項

- ・ 学生生活に関する支援の状況
- ・ 学生の健康に関する支援の状況
- ・ 就職等進路に関する支援の状況
- ・ 学生の課外活動に関する支援の状況
- ・ 学生の経済面に関する支援の状況
- ・ 各種ハラスメント防止に関する措置の状況
- ・ 障害のある学生に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

	概 要
【学生支援】	<p>【奨学金給付等】（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的困窮学生に対する修学支援金給付（大学院生対象、大学独自）20万円を12名に給付 ・ 授業料免除（文部科学省支援、大学独自）72名の後期授業料を免除 <p>【その他の支援】（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンダイアログの考え方に基づき、1人の相談者（学生）に対して2人の教員での対話形式の面談（対話ミーティング）の導入 ・ 全学生を対象としたセルフケアセミナー（全5回）の実施 ・ 心理カウンセリングを、学生の希望に応じて対面又はオンラインでの実施 ・ ライブ配信や収録動画配信により就職ガイダンスを実施 ・ 就職相談（キャリアカウンセリング）を、学生の希望に応じて対面又はオンラインで実施 ・ 障害学生に対する情報保障サポート ほか

【教育活動】留学生支援

■ 実施対象

留学生支援全般

■ 点検・評価事項

留学生の生活に関する支援の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

分 野	概 要
【留学生支援】	<p>【継続的な留学生支援】（継続） チューター制度を効果的に運用し、学習面における支援を充実させ、多くの留学生に対して継続的な学習支援を行っている。令和 8 年度における留学生チューターの実施状況は、チューター人数が令和 7 年度から13名増の96名となり、支援を受ける留学生数も18 名増の101名となり、支援の拡充が進んでいる。</p> <p>【交流促進活動】（継続） 前年度に引き続き、荒牧・桐生キャンパスにおいて、学生・教員との交流や留学生の状況確認、アドバイスの実施等を行う、定期的なホームルームを毎月 2 ～ 4 回開催し、継続的な支援体制の強化を進めた。</p>

【教育活動】 学生受入

■ 実施対象

学生受入全般

■ 点検・評価事項

- ・ 学生受入方針が明確に定められていること
- ・ 学生受入方針に沿った学生受入の実施状況
- ・ 実入学者数の状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、概ね適切に実施していることを確認した。

入学定員の充足率については、一部の研究科において「改善すべき点」があった。

■ 優れた点

分 野	概 要
【学生受入】	【新たな入学者選抜制度の実施】（継 続） 令和 7 年度入学から新たな入学者選抜として実施している、プログラミングなどの高度なスキルを持つ者を対象にした総合型選抜「iTFL（information Technology Frontier Leader）入試」において、昨年度においては、情報学部のみだった入学者が、令和 8 年度入学は、情報学部、理工学部へ入学し複数学部での入学実績となった。

【教育活動】 学生受入

■ 改善すべき点

以下の研究科においては、入学定員を**大幅に超える**状況となった（※）。
適正な在籍者数を維持するため、入学定員充足率の状況を継続的に把握し、改善方策に基づき改善のための取組を進めていく必要がある。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（入学定員）	判 定
保健学研究科	保健学専攻（博士後期課程）	1.33 倍 （ 10 名）	超過（大幅に超える）

※「1.3 倍以上」、又は「0.7 倍未満」の場合は、「大幅に超える」、又は「大幅に下回る」としている。

なお、充足率の判定にあたっては、令和8年10月入試による入学者は含まれていない。

■ 複数年にわたる改善計画の進捗状況

以下の研究科においては、昨年度の入学定員充足率において、入学定員を大幅に超える（1.3倍以上）状況となっていたが、昨年度に策定した改善計画の実施を受けて、充足率が改善している。
なお、上記の「改善すべき点」に記載のとおり、保健学研究科保健学専攻（博士後期課程）においては、大幅に超える状況にあることから、引き続き改善のための取組を進めていく必要がある。

研究科名	専攻名（課程区分）	充足率（R7）	充足率（R8）
食健康科学研究科	食健康科学専攻（修士課程）	1.33 倍	1.03 倍
保健学研究科	保健学専攻（博士後期課程）	1.60 倍	1.33 倍

【研究活動】

■ 実施対象

研究活動全般

■ 点検・評価事項

- ・研究活動の支援体制の整備の状況
- ・研究倫理教育の実施状況

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

分 野	概 要
【研究活動】	<p>【重点支援プロジェクトの成果】（継続） 学内研究支援として行っている「重点支援プロジェクト」に関して、大学の強みを育てるというプロジェクトの目的を着実に果たしている。</p> <p>G2（※）の支援終了後直ちに拠点化に至らない課題への継続支援を目的に、令和7年度から追加配分制度を導入した。2課題を支援し、将来的な研究拠点化を見据えた本学の強みや特色ある研究を推進した。</p> <p>※群馬大学の強み・特色として高い可能性を有すると考えられる研究プロジェクトへの支援(G3)の支援期間満了後、昇格審査を行い、さらなる支援を行う制度。</p>

【施設設備】施設、情報設備・図書館

■ 実施対象

- ・ 教育研究、自主的学習や課外活動等のための施設
- ・ 情報設備、図書館運営全般

■ 点検・評価事項

- ・ 施設の整備状況
- ・ 自主的学習環境整備の状況
- ・ 図書館運営に関する項目
- ・ 施設の安全性の状況
- ・ 情報設備に関する項目

■ 自己点検・評価の結果（総括）

自己点検・評価の結果、適切に実施していることを確認した。

■ 優れた点

分 野	概 要
【情報設備】	<p>【オープンアクセスの推進】（継続）</p> <p>文部科学省オープンアクセス加速化事業（茨城大学との連携事業）に採択され、学術論文をリポジトリに登録するためのシステム構築を行った。令和 8 年 2 月から、一部の教員を対象に同システムの試行運用を開始しており、全学への段階的な展開を令和 8 年度中に予定している。</p>